

# 木目の美しさなど木製製品の良さを感じてほしい

安代最後の木地師 くるみかご職人

## 松尾 清常

まつお・きよつね 86歳 秋葉



昭和11年生まれ。妻と2人暮らし。尊敬する人は丈夫な体に産み、育ててくれた両親。趣味はものづくりで何でも自分で作る。休日は孫やひ孫に会いに行くことが楽しみ。木地師として後継者の育成のため、コロナ前までは大学生などを指導。

2018年からふるさと納税の返礼品として、網代編みを施したくるみかごバックを提供している松尾清常さん。「代々受け継がれてきた技術で作ったものが評価されてうれしい。くるみの木から皮を剥ぎ、一から手作りしたものでプラスチックなどの化学製品に負けない良さがある」とにっこり笑う。

60年前から木や漆を使った器など身の回りものを自分で作っていたが、定年退職後から木地師（ろくろ）を用いて器などの木製品を製造する職人として本格的に活動を始める。一番の思い出は、是川縄文の里整備事業に携わったことで、「出土したものの復元作業をする中で、昔の人の技術の高さに驚いた」と当時を振り返る。木地師として活動する傍ら、網代編みを施したくるみかごバック製作に長年取り組んでいたところ、その質の高さがふるさと納税の関係者の目に留まり、返礼品としてこれ



採取から製作まで全ての作業を一人で行い、一つ一つ丁寧に仕上げています

を提供することに。技術の高さから新聞や雑誌などに取り上げられる機会も多く、「作品を見て、わざわざ工房まで遠方から訪ねてくる人もあり、今後の製作のやりがいにもなっている」と感謝を口にす。

86歳となった今もウォーキングや庭の草取りをするなど健康に気を付けながら「安代最後の木地師」として木地の製作を続ける。伝統技術を絶やさないために「情熱のある若者に技術を引き継いでいきたい」と意欲を燃やす。

■編集後記

▽人権啓発活動の取材で平館こども園を訪問しました。人が嫌がる「チクチクことば」ではなく、「ふわふわことば」を使ってね、と感覚的に呼び掛け。園児に聞いたら「やさしいほうがいいって言うことだよ」と理解した様子。自分にも心当たりがあり、胸がチクチクしました。智

▽中総体を取材しました。思い通りのプレーができた子、そうでなかった子もいるかもかもしれませんが、ベストを尽くして戦っている姿を写真に収めるのは苦労しました。今回の特集で少しでも皆さんに子どもたちの熱量が伝わればいいなと思います。

（雅）

### 【広告】

いぼ、癌、免疫系等

コミュニティバス「にしね眼科」バス停すぐ

薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります

漢方のあさひ薬局 西根中学校前店

公認スポーツファーマシスト  
国際中医専門相談員  
認定実務実習指導薬剤師

薬剤師 齋藤 貴将

八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

